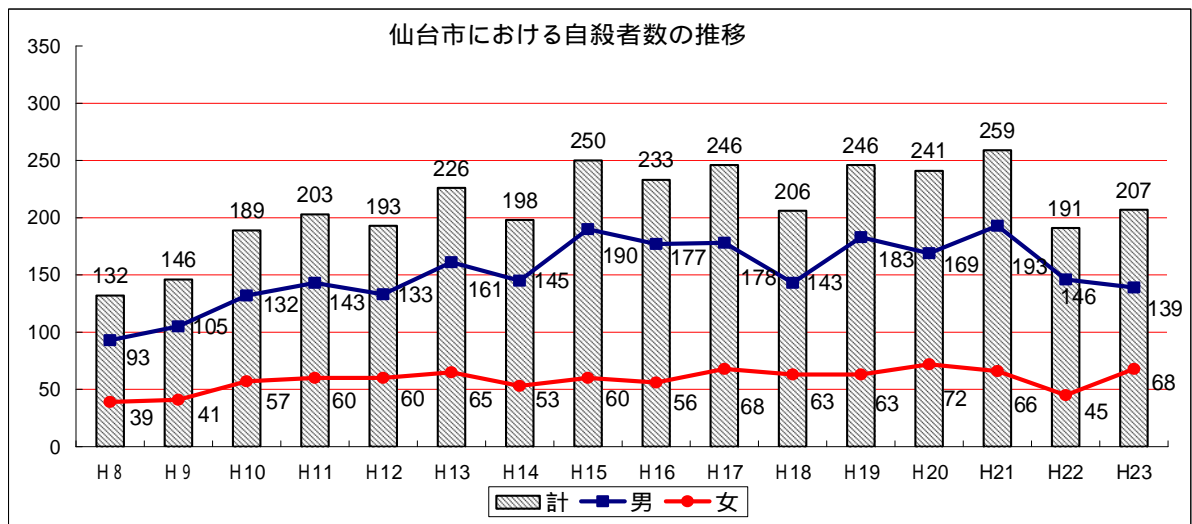


平成23年の仙台市における自殺の現状について

1 自殺者数の推移 厚生労働省人口動態統計より

仙台市の自殺者数は、平成15年以降は200人を超える高い値で推移し平成21年には259人と過去最も多い自殺者数となったが、平成22年は191人（対前年：68人減）と大幅に減少した。平成23年は概数で207人（対前年比：16人増）と昨年より増加した。男女別では、男性は139人（対前年：7人減）、女性は68人（対前年：23人増）で、男性の自殺者が全体の約7割を占めている状況は変わっていない。

図1

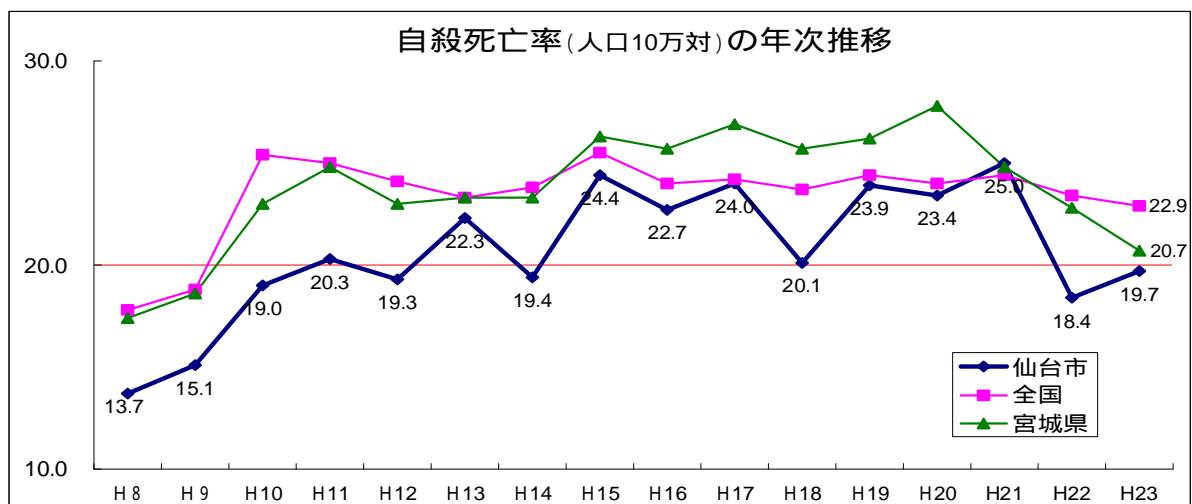


人口動態統計

2 自殺死亡率 厚生労働省人口動態統計より

平成23年の本市の自殺死亡率（人口10万対）は19.7で昨年に比べ1.3ポイント上がった。政令指定都市の中では4番目に低い自殺率となった。

図2



人口動態統計

表1 厚生労働省人口動態統計による政令指定都市の自殺率の状況

都市名	23年	22年	21年
大阪市	25.9	29.0	25.8
北九州市	23.5	23.9	26.9
神戸市	22.9	23.5	22.7
静岡市	22.9	21.3	19.7
相模原市	22.9	19.6	-
札幌市	22.6	22.6	22.1
堺市	22.4	24.5	22.1
新潟市	22.3	23.6	21.2
福岡市	22.2	23.3	28.7
さいたま市	21.8	21.3	23.3
名古屋市	21.1	20.3	21.8

都市名	23年	22年	21年
京都市	20.4	23.0	21.5
岡山市	20.3	19.8	18.9
横浜市	20.2	21.7	20.7
川崎市	19.8	22.0	22.5
仙台市	19.7	18.4	25.0
浜松市	18.9	20.1	20.3
千葉市	18.9	23.2	16.9
広島市	17.1	20.3	21.5
東京都	22.9	23.0	22.8
全国	22.9	23.4	24.4

平成23年の自殺率の高い順 人口動態統計

- ・網掛けした都市は、平成23年の自殺率が前年を上回った都市。・相模原市は平成22年4月1日から政令指定都市
- ・平成23年・22年・21年は確定のデータを使用している。

3 年代別自殺者の状況 厚生労働省人口動態統計より

人口動態統計による本市の年代別の自殺者数の割合をみると、30代・40代がそれぞれ19.3%と最も多く、次いで50代・60代が15.9%、20代が15.0%の順となっている。全国の年代別では、60代が18.0%、50代が17.6%、以下40代(16.5%)30代(14.5%)の順となっている。本市は全国と比べ70歳以上の高齢者割合が低くなっているが、20代から40代の自殺者が全国よりも高くなっている。

図3

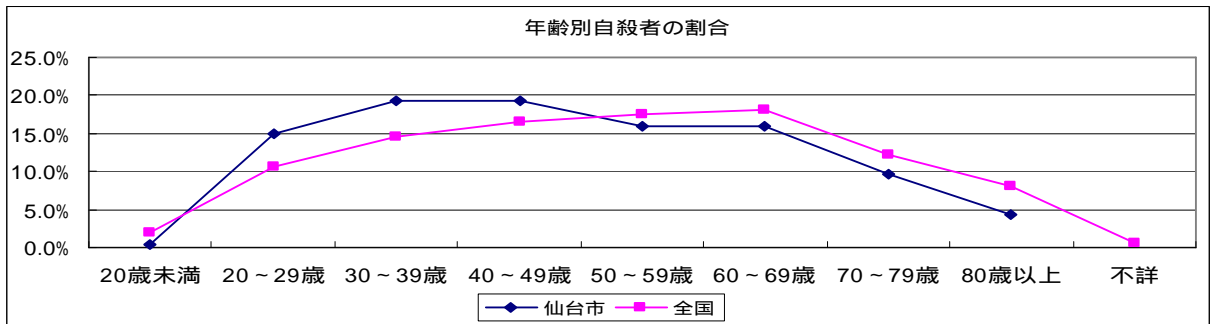


図4

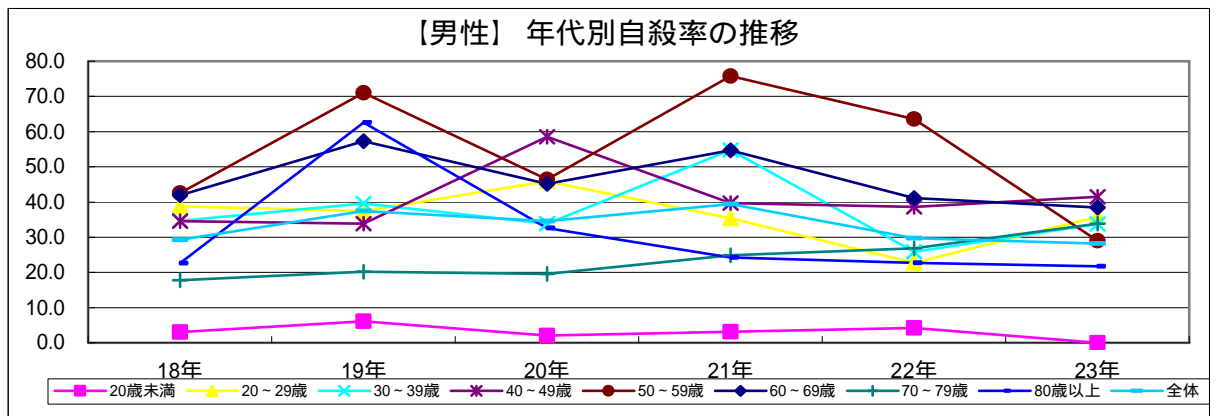
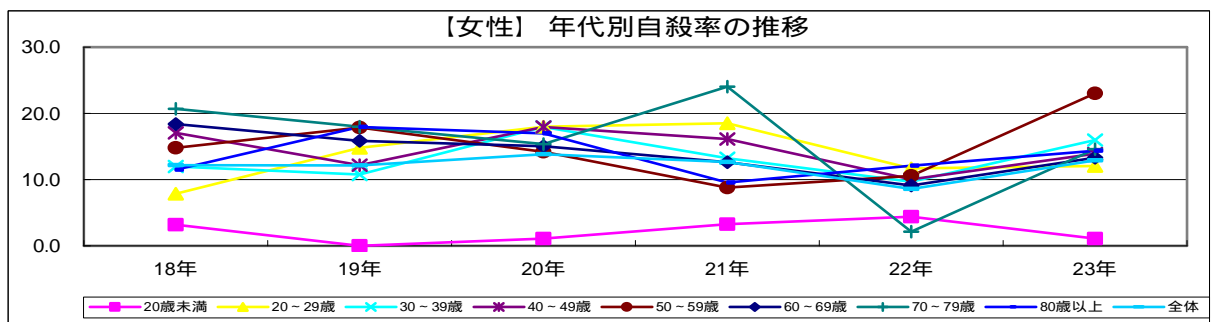


図5



4 自殺者の背景 警察庁統計より

1) 区別自殺者数と自殺率(人口 10 万対)の状況

警察庁統計より平成 23 年の区別の自殺率について比較すると、全体は、22.0 となっている。男女別では、男性が 30.3 で女性が 14.4 となっている。男性の中では、太白区が最も低く(22.8)、次いで泉区(23.5)、青葉区(27.7)、宮城野区(41.3)、若林区(43.4)となっている。

	男(自殺率)	女(自殺率)	合計(自殺率)
青葉区	36(27.7)	23(16.1)	59(21.6)
宮城野区	37(41.3)	11(11.7)	48(26.2)
若林区	27(43.4)	9(13.8)	36(28.2)
太白区	24(22.8)	14(12.5)	38(17.5)
泉区	24(23.5)	18(16.6)	42(19.9)
合計	148(30.3)	75(14.4)	223(22.0)

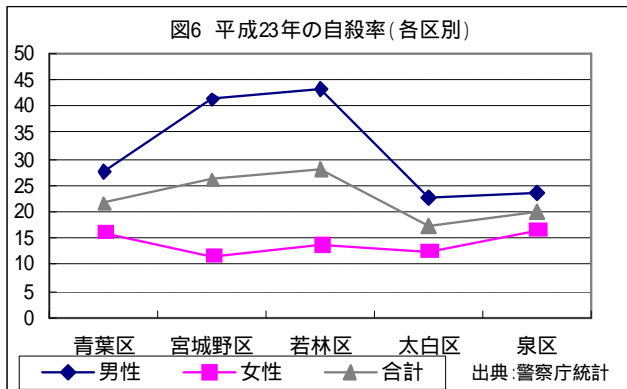
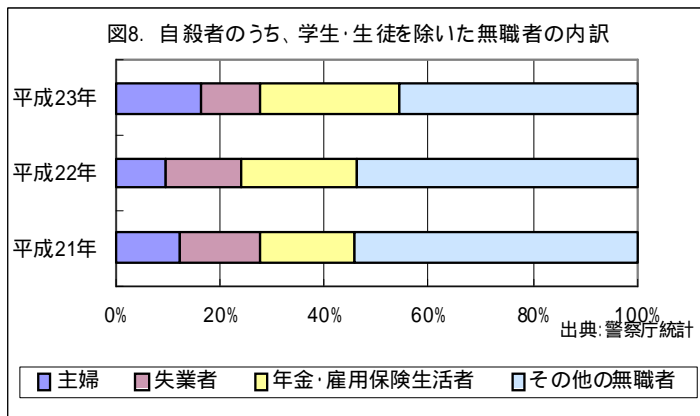
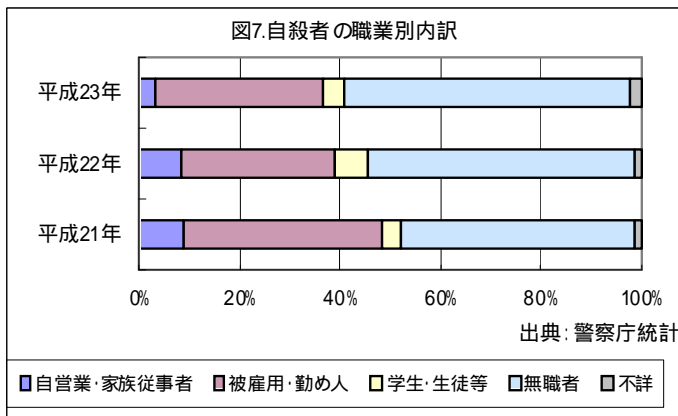


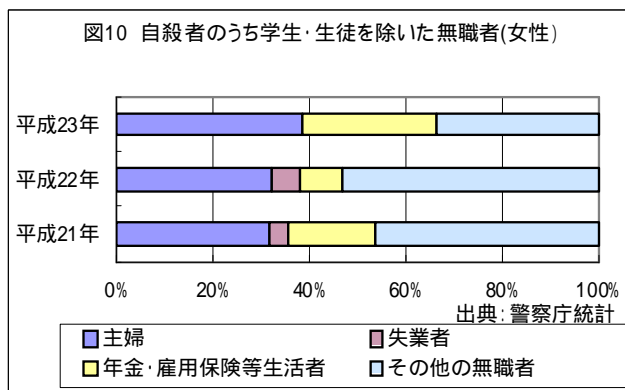
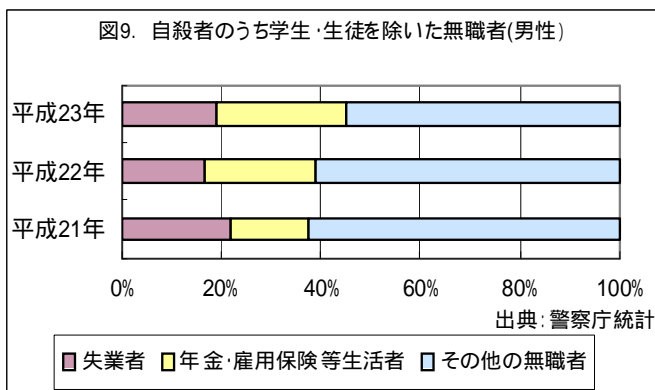
表 .区別自殺者数と自殺率(出典：警察庁統計)

2) 自殺者の職業別内訳

平成 23 年の自殺者のうち、最も多いのは学生・生徒を除いた「無職者」で、全自殺者の 57% (127 人) を占めており、次いで「被雇用人・勤め人」が 33% (74 人) となっている(図 7)。

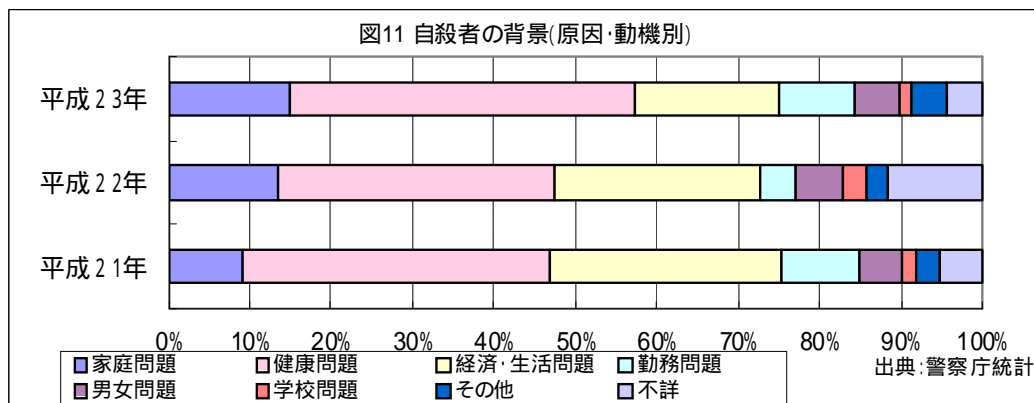


また、学生を除いた無職者うち、主婦・失業者・年金・雇用保険生活者を除いた「その他の無職者」が無職者の約半数を占める。(図 8~10)



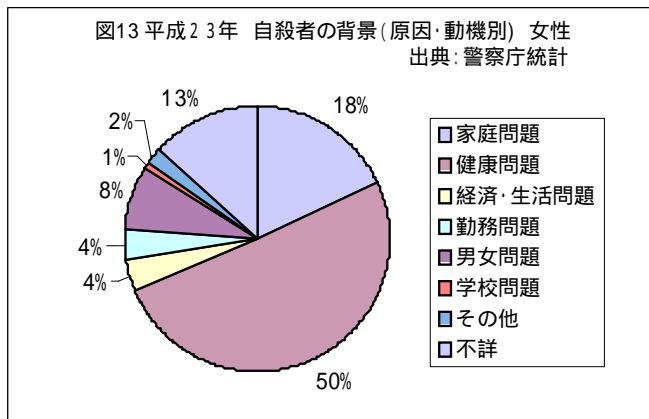
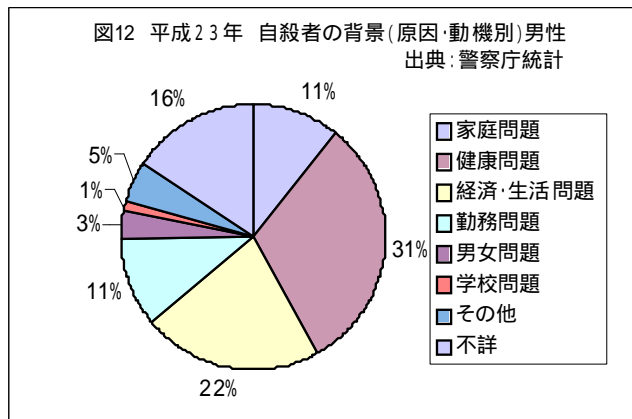
3) 自殺者の原因・動機別内訳

原因・動機が明らかなもののうち、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」、「男女問題」の順になっている(図11)。



4) 男女別にみた自殺者の原因・動機別状況(平成23年)

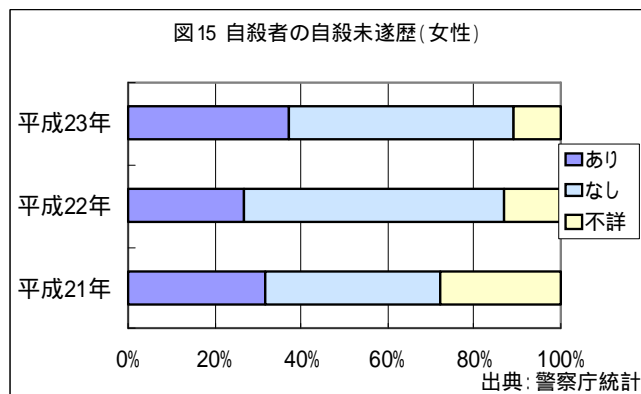
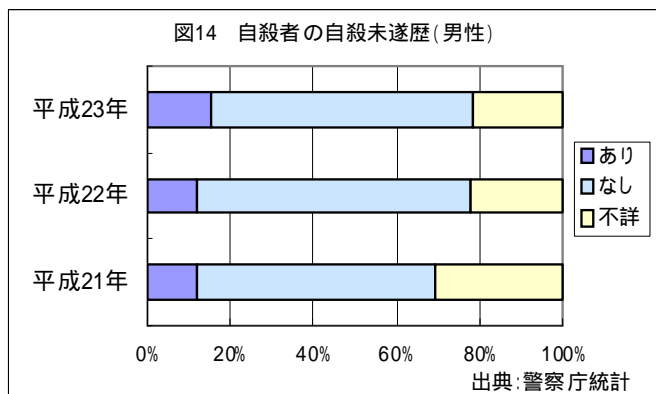
平成23年の自殺者の原因・動機別件数では、男性では健康問題(64件、31%)が最も多く、次いで経済・生活問題(45件、22%)、家庭問題と勤務問題が同数(22件、11%)となっている(図12)。女性では、健康問題(53件、50%)が最も多く、次いで家庭問題(19件、18%)、男女問題(8件、8%)、経済・生活問題と勤務問題が同数(4件、4%)となっている(図13)。



5 自殺者の背景 警察庁統計より

1) 自殺未遂歴の有無

自殺者のうち、自殺未遂歴があったものは、全体の20%前後であるが、男女別にみると、男性は15%前後であるのに対し(図14)、女性は20~37%と(図15)、女性の方が高くなっている。



2) 同居人の有無

同居人の有無について自殺者のうち、同居人がいたものは、男女とも全体の6割以上を占めている(図16~17)。

